

EBINA 巧みの技術で「もの創り」



今回は、無人搬送車をはじめ、組立・製造装置からバイオテクノロジー機器まで、さまざまな分野で使われる機器の開発・製造を手掛ける(株)タクマ精工(白石稜威男代表取締役・社員数41人)をご紹介します。

(株)タクマ精工

本社/工場
社家 747
☎239・0755
ホームページ
<http://www.takuma-seiko.co.jp/>

タクマ精工は、昭和55年に厚木市で設立され、平成8年に本社ビルおよび工場を現在地に移転しました。設立当初から、精密冶工具(「機械工作に用いる道具や、その生産精度を高める補助工具」)のほか、生産設備の自動化・無人化機械を設計・製作・販売しています。昭和60年には、それまで培ってきた技術を基に、無人搬送車(AGV=Automatic Guided Vehicle)を開発。これまでに8500台以上を販売し、現在では、売り上げ総額の6割を占める同社の主力製品となっています。

無人搬送車は、輸送経路などのプログラムが組み込まれたチップ(IDチップ)を工場などの生産ラインの床に埋め込んでおき、搬送車の底部に取り付けられたアンテナ部品がその情報を読み込んで動くしくみです。

「一番の利点は、省人化。工場生産ラインの人手による運搬を省き、時間に正確に部品等を運搬するため、人件費の削減につながります。また、IDチップの埋め込みは軽易な作業のため、生産ライ



▲幼少のころから「もの創り」に興味があったという白石さん。田植えの様子を見て、「便利な田植え機械を作ってみたらどうだろう」と考えていたことも。現在は、海老名商工会議所の副会頭や、「中小企業家同友会」会員として、さまざまな人たちと交流を深め、情報交換を行っているそうです。

ンのレイアウト変更が簡単にできる柔軟性も魅力です」と、白石代表取締役は話します。

積載量最大1.5tの大型タイプから35kgの小型タイプまで、大きさはさまざま。機能も各種そろっており、国内の大手自動車工場のほか、食品関連会社、大学の研究所、病院など、各方面で採用されています。

同社は、「依頼があれば、どんなものでも製作にチャレンジすること」がモットー。このため、今までに開発した製品は、無人搬送車のほか、飲料物の微生物混入を検査する機械や、川の流れを利用した水力発電機など、多種多様です。

「わが社の製品は、お客様の要望に合わせて、カスタムメイドが特長」と白石さん。開発依頼を受けたときは、実際の現場状況など、仕様書からだけでは分からない部分について話し合いを重ね、お客様の視点を大切にしながら製品を作り上げていくそうです。「独創的で柔軟な技術を基に、お客様の役に立ち、喜んでもらえる製品作りを

①「潜り込み型」の無人搬送車。床に埋め込まれたIDチップを感知して自動的に台車の下に潜り込み、台車の底面と連結して動かしながら荷物を運搬する



②走行床に埋め込まれるIDチップ(写真左)と、無人搬送車の底部に取り付けられ、IDチップの情報を読み取るアンテナ部品(同右)

心掛けています」。無人搬送車開発のきっかけもまた、お客様の要望。そのときに「とりあえずやってみよう」とチャレンジし、数多くのお客様との話し合いを経て、現在の形に至ります。「苦勞もありましたが、それもまた面白いな」と、白石さんは笑顔で話します。

社名の「タクマ」は、経営理念にも掲げる「切磋琢磨、優れたものを作り出す技術」という意味の「巧み」など、さまざまな思いが込められたもの。「ハード面の物だけでなく、ソフト面でのもの創りにも積極的に取り組んでいます。今後いろいろなことに挑戦し続けていきたい」と白石さん。タクマ精工はこれからも、好奇心とチャレンジ精神を持って、時代が求める「もの」を創り続けます。

鮮やかなよさこい衣装で準大賞



2月16日・17日、福井県越前市で、全国99チームがよさこいの衣装を競い合う「第3回全国YOSAKOI衣装デザインコンペティションinふくい」が開催され、市内のよさこいチーム「びよんびよん天手子舞」が、準大賞を受賞しました。

職場での体験学習



市内中学校2年生が、1月から2月にかけて、働くことの意義や自分の生き方について考える機会として、市内各事業所や市役所などで職場体験学習を実施しました

▶市役所で案内業務をする海西中の山崎咲桜里さん(写真左)と吉川実希さん(同右)

春は新生活がスタートする季節です。市でも組織や庁舎内の配置が変更となることもあり、広報担当もその一つ。

編集後記

組織は変わりませんが、事務室は4階に。4月からは気持ちも新たに、より読みやすい紙面づくりを目指します。(常)